
東方宵闇邸

CROW

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方宵闇邸

【Nコード】

N4722BA

【作者名】

CROW

【あらすじ】

高校受験の会場へ行く途中にトラックに撥ねられ死んだごく普通の中学3年生の樹紫苑^{いつきしおん}は謎の青年仁によって東方の世界へ転生させられた。

第1話

俺は樹紫苑^{いつきしおん}15歳、ごく普通の中学3年生で高校受験の会場に行く途中だった。

男「君！危ない！」

「えっ」

よく見るとトラックが歩道に乗り上げ俺の目の前に来た。そしてあっさりと撥ね飛ばされ地面に叩き付けられた。体中が痛かった。トラックは電柱柱に激突した。

女性「キヤアアア」

近くでその光景を見ていた女性は俺を見て甲高い悲鳴を上げた。

男「救急車と警察を呼ばないと」

俺に声を掛けた男性が急いで携帯電話を取り出した。

「（ここで終わるのか）」

だんだん近くに居た男性の姿がぼやけて来て痛みも和らぎ始めた。

そして意識を失った。

「此処は？」

目を覚ました場所は病室ではなく真っ白で何も無い広い空間だった。
？「おめでとう、君は幸運だ」

突然背後から声がした。

「は、いつの間に」

声のする方に振り替えると、白いスーツを着た金髪で青い目の美青年が居た。

？「僕は仁^{じん}」

「で、此処は？何が幸運なんだ」

意味不明な状況に俺は困惑した。

仁「君は死んだんだよ、そして抽選で選ばれた」

「あのまま死んだのか」

仁「でも君はやり直せる、しかし別の世界だけだね」

「どこだ」

仁「君がよく知っている「東方の世界」さ種族は上級妖怪だそして能力もある」

「何の能力だ」

仁「秘密さじきに分かるよ、じゃあ行つてらっしゃい」

「ちよつとまだ聞きたいことg」

そして意識を失った。

目を覚ますと明るい森の中で日本刀を持った一人の若い男性がいた。

男「妖怪だな、死んでもらう」

そしていきなり俺の左胸を刺した。え、また死ぬの？

「あれ、血が出ない」

代わりに傷口から黒い霧みたいな物が出た。

「（何だ？「闇を操る程度の能力」「持っている能力を使いこなす程度の能力」ルーミアだな）」

男「何だ真っ暗だ」

「オヤスミ」

男「かはっ」

俺は後頭部を右の拳で殴り気絶させた。

「えつと此処は何処だ」

そして山があつたので登つて行つた。

？「あやや、貴方は何者ですか」

上から声がしたので上を見ると背中に黒い羽根を生やした少女が浮いていた。彼女はとも見ても射命丸文だった。此処は妖怪の山か。

「誰だ（名前呼んだら不味いな）」

文「貴方は妖怪ですか（妖気が私より多い）」

彼女は俺の前に降りて来た。ヤバい本物だ。

「そうだけど君は天狗か」

文「はい、私は射命丸文と言います貴方は」

「俺は樹紫苑」

文「では、またいつか会いましょうか」

そして彼女は羽を開いて飛んで行った。

「別の場所に行こうか」

そして山を下りて数時間森の中をさまよっていた。

「空気が美味しい」

？「ねえ、食べていい？」

後ろから声がした。そしてあたりが急に薄暗くなった。

「？」

振り返ると黒い服を着た金髪の背が俺（170cm）の首元ぐらいの少女が

両手を広げ首を右に傾け笑っていた。ルーミアか？でもリボンが付いてない。

ル「答えないなら食べていいんだね」

よく見ると彼女は傷だらけだった。

「おい、その傷は大丈夫か」

ル「え、これは・・・」

彼女はうつむき話し始めた。俺を食うんじゃないのか。

彼女は比較的弱く、自分より強い妖怪に虐められたらしい。

「じゃあ、強くなりたいか？俺も同じ能力だ」

彼女は俺と同じ能力なので鍛えてあげようと思った。

ル「うん、私強くなりたい！私はルーミア」

「俺は樹紫苑」

そして俺は彼女を強くすることになった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4722ba/>

東方宵闇邸

2012年1月12日22時50分発行